

人吉は、日本史上最後の内戦となった
西南戦争の激戦地のひとつなのです

西郷どんと人吉

明治10年6月1日 人吉かんらくの陥落

官軍は種々のルートから
人吉に攻め入りました。



▲西南戦争を描いた錦絵のコピー。人吉城歴史館で見ることができます。

西郷 隆盛

西郷隆盛は幕末の薩摩藩士。
「薩長同盟」や「倒幕・維新」など
で歴史の教科書で習った人物。政
治力で明治維新を遂行しながら、
最後は西南戦争で自決しました。



西南戦争

明治政府を去った西郷隆盛は、鹿児
島に帰り陸軍士官養成学校を設立。そ
の学生と九州の士族が共に明治政府に
対して挙兵した内戦です。

人吉は薩摩軍側に

理由の一つは、
文久2年(1862)の人吉城下大
火災・寅助火事
で、復興のための
借金を大阪の商
人近江屋、細川藩
(熊本)、島津藩
(鹿児島)に頼ん
だのですが、細川
藩からは断られ
ました。その一方
で、島津藩はお金だけではなく人材ま
で派遣してくれました。その恩があっ
て、人吉は薩摩軍へ協力することと
なりました。



熊本城落ちず、田原坂で敗北

明治10年2月、薩摩軍は7大隊に分
かれ鹿児島島を出発します(政府・官軍
も福岡方面から進軍)。そのうちの第4
隊が加久藤峠を越え人吉に到着し、人
吉市町蔵屋敷(現人吉税務署)に1
泊。人吉隊も合流して熊本城を目指し
ます。しかし熊本城は落ちず、田原坂で
負けてしまうのです。

そこで人吉隊が「これまで人吉は他
から攻め入られた事がない。薩摩軍が再

挙するために人吉で体制を立て直しては
どうか」と意見し、これに薩摩軍が賛成し
て4月27日から人吉に駐留するのです。

人吉を楽しんだ西郷どん?

薩摩軍は、永国寺を本営としました
が、人吉での滞在期間(三十三日間)に
西郷どんが趣味の狩猟に行つた
り、犬を連れ
て魚釣りに
行つたりす
る姿も見ら
れたとか。そ
して5月29
日、官軍(政
府)が人吉へ
進攻すると
西郷どんは、小林方面へ移動しま
した。



6月4日、人吉隊降伏

官軍は、村山台地に砲台陣地を築き、
眼下の薩摩軍めがけて砲弾を浴びせま
す。6月1日の夜の内には、薩摩軍は大
畑に撤退、人吉隊は田代に撤退。4日に
新宮筒(裏ページ左上イラス
ト参照)の呼びか
けもあって降伏し
ました。

西郷どんは、そ
の後9月24日に鹿
児島の城山で自決
し、西南戦争は終
結したのです。



官軍と人吉隊、敵味方となった悲劇の新宮親子
官軍（政府）の参謀・新宮簡と息子の人吉隊所属・新宮嘉善は人吉攻防戦で相打ちに。
球磨川を挟んで北に官軍、南に薩摩軍。さあ、どうなる？

新宮嘉善
父からの手紙、3日後に人吉を総攻撃するとある
息子よ、今のうちに逃げてくれ

それ以前の田原坂の戦いで簡の義弟である人吉隊一番隊の隊長神瀬三も壮烈な戦死をしたばかり...

新宮家屋敷には薩摩軍幹部が宿舎としていた
父よ、死んであつては親孝行です
私は人吉隊にあたると戦います

父からの有り難い言葉とはいえ、仲間を裏切るわけにはいきせん
3日後の6月1日、自分の故郷を攻めるのは苦しかったのですが、まさか我が家へ大砲2発を打ち込み火炎させたのです
敵は新宮家だ！
撃てー!!!
息子よ、許せ

村山総合公園
人吉鉄道ミュージアム MOZOCA ステーション 868
人吉温泉駅
人吉駅
からくり時計
天守閣
あおやぎ
チヨソル
朝陽館
ホテルサン人吉
人吉旅館
松屋ビジネスホテル
あさひ温泉

産交バスターミナル
マルシヨク
大村横穴群
人吉温泉駅
人吉駅
からくり時計
天守閣
あおやぎ
チヨソル
朝陽館
ホテルサン人吉
人吉旅館
松屋ビジネスホテル
あさひ温泉

9 永国寺
西郷隆盛が、本宮を置いた永国寺には西南戦争に関するものがいくつもあります。

西郷隆盛の遺蹟碑
昭和19年、西郷隆盛の従弟が永国寺へ来て隆盛の追善法要を行い、位牌を安置。また本堂前に遺蹟碑を建立しました。

人吉二番隊士の碑
西南戦争で戦った人吉二番隊士の六名の追悼の碑。明治10年西南戦争の五木村平瀬の戦いで戦死しました。

西南戦争を物語る錦絵
寺の書院壁に飾られた絵の数々は当時の戦いの様子を知る大切な資料。



西南戦争人吉戦跡 散策マップ

サンロード瓦屋店

2 官軍本営

1 官軍砲台跡

7 大俣橋・小俣橋の銃撃戦

8 弾痕の社

9 永国寺

10 武家蔵

11 西郷隆盛宿舎

12 人吉城跡

13 勝海舟揮毫戦死之碑

14 田町炎上

官軍の大砲は当時の最新式
川向こうの西郷軍陣地までも
飛ぶぞー！

ここから、官軍に向
けて大砲を撃つが
届かない！

たくさんの命が
失われたのは残念である

凡例

	ホテル・旅館		駐車場		温泉
	公共トイレ		焼討蔵		バリアフリー対応 トイレ
	タクシー		コンビニ		戦場
	ガソリンスタンド		銀行		

西郷さんの
顔出しパネル
武家蔵の前にあります。
記念写真にいかが？

薩摩軍の砲弾
球磨川で見つかった。
薩摩軍の兵器
の古さを感じること
ができる。

西南戦争人吉戦跡 散策マップガイド

1 官軍砲台跡

村山台地の先端からは人吉の市街地が一望できます。官軍は6月1日に人吉に突入すると、村山に砲台を築いて球磨川南岸の西郷軍の駐屯地めがけ砲撃。この時、旧人吉藩士で官軍の参謀となっていた新宮簡は、西郷軍幹部の宿舎となっていた自宅や士族屋敷への砲撃を指示し炎上させています。

2 官軍本営(瓦屋町政岡邸)

6月1日正午、人吉北岸を制圧した官軍の別働隊第二旅団の指揮官山田顕義少将は、瓦屋村(現・人吉市瓦屋町)の民家を本営にしました。今も官軍が使用した小銃の懸架台や燭台などが残されています。

3 屯田兵宿营地(聖泉院)

別働隊第二旅団のうち、肥後峠・方江谷を進軍してきた堀大佐指揮下の部隊は、札幌から従軍した屯田兵の部隊で、聖泉院を駐屯地としました。

4 官軍白砲隊表札(鬼木町芦原中根邸)

官軍が人吉を陥落させ占領すると、瓦屋・永田・芦原・鬼木・泉田・高野などに駐屯しました。中根家には表札に使用したとみられる「別働隊第二白砲隊」と大書された雨戸が残されています。

5 官軍拘置所(大信寺)

官軍によって人吉が陥落すると、人吉隊は大畑方面に撤退、6月4日、西郷軍から離脱した260人が官軍に降服しました。大信寺は裁判までの人吉隊士の拘置所となりました。境内の山門脇に「戦死之碑」が建立されています。



大信寺山門(人吉市南泉田町)

6 人吉隊本部(元青井大宮司家屋敷・文化苑)

青井大宮司家屋敷(現・文化苑)は、4月27日、人吉に帰還した人吉隊士の宿舎・本部となり、5月3日には人吉二番隊も結成され熊本隊とともに門前で閲兵式典が挙行されました。

7 大俣橋・小俣橋の銃撃戦(大橋・中川原)

西郷軍は撤退する時、官軍(政府軍、以下官軍)の進軍を妨害するため中川原に架かる大俣橋と小俣橋(現・大橋)を焼きました。

8 弾痕の社(老神社境内の菅原神社)

6月1日午前、官軍は球磨川北岸の市街地を占領し、南岸の西郷軍との銃撃戦に。現在、老神社境内奥の菅原神社には、銃撃戦を物語る弾痕が十箇所ほど残ります。



老神社本殿・日本遺産構成文化財



弾痕

9 西郷隆盛宿舎(永国寺)

田原坂の陥落、御船の敗戦などで後退した西郷は、4月27日、人吉に着き永国寺を宿舎(本営)としました。官軍が山越えて人吉への進攻を始めた5月29日、西郷は小林方面に移動。およそ33日間の滞在中、趣味の狩猟などをしたというエピソードが残ります。現在、西郷の位牌や人吉二番隊士の碑等があります。



永国寺山門(人吉市土手町)

10 西郷軍幹部宿舎(元新宮家屋敷・現武家蔵)

人吉に集結した西郷軍は、士族屋敷や町家に駐屯。官軍陸軍裁判官(中主理)新宮簡の屋敷は、その息子の嘉善が人吉隊小隊長であった関係で西郷軍幹部村田新八らの宿舎となりました。村田から嘉善に「国許の酒が届いたので自宅に帰り飲み交わさないか」という手紙が残されています。



正面に建つ掘合門が目印

11 千人小屋(麓町、人吉城跡)

人吉城内の「御馬買馬場」と呼ばれた道路は、西郷軍が去った後は戦争で被災し家を失った町人たちの仮住居が立ち並ぶ避難場となりました。



三の丸から官軍砲台が置かれた村山台地を見る



西南の役関連の資料もある人吉城歴史館(人吉市麓町)。前の道が「御馬買馬場」になる

12 西郷軍陣地(国指定史跡人吉城跡)

西郷軍は三の丸辺りに大砲を持ち上げ、北岸の官軍を砲撃しました。

13 勝海舟揮毫戦死之碑(林鹿寺)

戦後、新宮嘉善を發起人として西南戦争殉難者の戦死之碑建設計画がもちあがり、建立されました。「書」は、勝海舟とされます。現在、碑は林鹿寺境内に移され、原本もこの寺院の宝物として保管されています。



林鹿寺山門(人吉市麓町)

14 田町炎上(田町)

西郷軍は、官軍の追跡から逃れるために、田町橋とともに田町の民家に放火して人吉から撤退しました。

注意/寺院や個人住宅では、モラルをもって見学しましょう。個人住宅の敷地内に入るには事前の了解が必要です。

人吉観光のお問い合わせ

■人吉観光案内所(JR人吉駅構内)TEL0966-22-2411 9:00~18:00 年中無休

■人吉観光振興課TEL0966-22-2111 www.city.hitoyoshi.lg.jp

■人吉温泉観光協会 TEL0966-22-1370 www.hitoyoshionsen.net